

事業者における自己評価結果（公表）

別紙 3

放課後等デイサービス

公表：平成 31年 2月 4日

事業所名 こども通所サービスひかりII

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			部屋の1つ1つが広く、適切な療育が出来るスペースを確保している。
	②	職員の配置数は適切である	○			基準人員より多めに配置している。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		全バリアフリー。トイレに手すりを付けているが、廊下等手すりがない所がある。
業務改善	④	業務改善を進めるための PDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○			ミーティングや個別に話しをして業務に活かしている。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		○		保護者の要望には耳を傾け、出来る範囲の中で改善につなげている。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			今回が初めて。 ホームページで閲覧可能。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○	外部評価を行っていない。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			月に1度の職員研修、年に2度の勉強会を行っている。また、外部の研修にも参加している。
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			アセスメントを実施し、保護者のニーズに基づいて計画を作成している。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している			○	使用していない。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている		○		月に一度行っている。 会議の頻度を増やしたい。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している		○		工夫しているが、固定傾向にある。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○		課題を決めて支援をしているが、細やかな設定までは出来ていない。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	○			
⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している		○		支援内容の打ち合わせなどは行っているが、細かな部分までは十分とは言えない	

	⑩	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○		支援結果の報告を行い、共有している。しかし、職員間での打合せは時間が足りず不十分。
	⑪	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている		○		日誌や連絡帳などを活用し、記録して共有している。
	⑫	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している		○		半年に一度モニタリングを実施し、見直しを行っている
	⑬	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている		○		
関係機関や保護者との連携	⑭	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している		○		
	⑮	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている		○		メールやファックス、等で情報共有を行っている。
	⑯	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			○	医療ケアが必要な利用者がいない
	⑰	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		相談支援専門員に入ってもらい、情報共有に努めている
	⑱	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している			○	まだ卒業した利用者がいない
	⑲	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている			○	
	⑳	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある			○	
	㉑	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している			○	
	㉒	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている		○		連絡帳や送迎時の連絡で共通理解を図っている
	㉓	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている			○	連絡帳や面談時に支援内容をお伝えしている。しかし、十分とは言えないため講習などを行っていく予定。
	⑳	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている		○		契約時や面談の時に説明している。
	㉑	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている		○		面談や連絡帳などで応じている。

保護者への説明責任等	③②	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		保護者会は開いていないが、イベントで交流の場を設けている。今後は機会を増やすように検討中。
	③③	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			苦情対応窓口を設置し、ポスターの掲示をしている。また、マニュアル作成を行い体制を整えている。
	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行動予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			定期的に広報誌を配布している。ホームページにて発信している。
	③⑤	個人情報に十分注意している	○			
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			○	
非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか		○		マニュアルを策定し職員に周知している。保護者への周知を行っていないため、作成を検討している。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			定期的に避難訓練を実施している。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			虐待防止マニュアルを作成している。研修を実施している。
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している			○	身体拘束が必要な利用者がいない。虐待防止マニュアルや契約書の中に身体拘束についても明記し周知している。
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている			○	アレルギーのある利用者がいない
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。